

将来像（案）

あたらしく、知多らしく。梅香る わたしたちの緑園都市

このまちに春を招く梅の花、昔日の面影を残す路地。
風車が並ぶ夕暮れの海辺、なだらかな丘や田園、道の両側に続く緑の帯。
そこにはいつも、のびやかな空がある。
見慣れた普段着の景色も、初めての人にはときめく風景だったりします。

心わきたつ祭りの日、近くの自然にくつろぐ週末。
そして、人と人との柔らかなつながり。
都会や世界にも近く、便利でありながら、どこかスローな暮らし。
日常を楽しむ人が多いのは、居心地のよいまちだからかもしれません。

もっと、誰もが心地よく暮らせるように。
ずっと、笑顔が新しい世代につながっていくように。

想いに寄り添い、声を掛け合い、健やかに人やまちを育てていく。
さまざまな魅力を発信し、人が集う仕掛けをつくり、まちを整える。
穏やかな日々にも包まれながら、はつらつとしたにぎわいをまちに呼ぶ。

なにより、みんなのしたいことを共にかなえるまちでありたい。
わたしたちが願う未来をつくるのはわたしたち。
あたらしく、知多らしく。
それぞれの幸せが続くよう、しっかりと丁寧に未来を描いていきます。

1 コンセプト

簡単な言葉で韻を踏み、誰もが覚えやすい短いフレーズとしています。

2 説明

「あたらしく」

皆が夢や希望に向かってチャレンジを積み重ね、めざす姿を実現していきます。様々なチャレンジが積み重なり、新しいまちづくりの仕組みが生まれ、まちが活気付く姿を表現しています。

「知多らしく」

本市には、残していきたい、まちづくりに活かしていきたい様々な魅力資源があります。自然が多く、ゆったりと落ち着いた暮らしのできる環境や、市民の温かい人柄、活発な市民活動や地域活動など、未来につなげていきたい知多市の魅力を最大限に活かした特色あるまちづくりを進めていきます。

「梅香る」

梅は市の花に指定されており、愛知県下一の梅林で開催される佐布里池梅まつりには毎年15万人を超える観梅客が訪れます。シティプロモーションの一つとして、梅という魅力資源とともに知多市をPRするため、「梅」を盛り込み、さらに梅が「香る」とし、市の雰囲気として柔らかく表現しています。

「わたしたちの」

市民、NPO、地域、企業、行政など、様々な主体が持てる力を出し合い、共にまちを創っていきます。地域愛を育み、「自分たちの願う未来を自分たちでつくっていく」という考え方を表しています。

「緑園都市」

本市は市制施行以来、半世紀にわたり、単なる緑の多さだけでなく、産業との調和を図りながら、「自然」と「都市機能」とのバランスがとれた、活力と潤いにあふれた「緑園都市」をめざしてきました。

豊かな自然に恵まれ、落ち着いた暮らしができる快適な住環境は、大きな魅力であることから、引き続き「緑園都市」を掲げ、この魅力をさらに高め、未来につなげていくものです。